

釜石魚河岸にぎわい館 魚河岸テラス入館者10万人達成

11月22日【魚河岸テラス】

本年4月13日に「海、魚のまち釜石」を発信する新拠点としてオープンした魚河岸テラスが、予想より早いペースで入館者10万人を達成しました。10万人目となったのは、東日本大震災の被災地を巡るツアーで訪れていた後藤鮎夏さん（東大阪市 写真中央）と大村森香さん（大阪市 写真左）。会社の同僚という2人は「海が見えるおしゃれな空間」とご満悦そう。魚河岸テラスへは県内内陸からの来客が多く、自動車道開通の効果もあり入館者数は順調に推移しています。



10万人を記念して、花束と記念品が贈られました



各種測定コーナーには多くの人が並び、自身の健康状態をチェックしました

第32回釜石市健康づくりの集い

11月30日【釜石市民ホールTETTO】

釜石市健康づくりの集いは、市民の健康づくりや健康長寿社会を目指し開催。釜石医師会や薬剤師会、歯科医師会その他、食生活改善推進員協議会など専門の団体がコーナーを開設し、各種測定や幅広い分野での健康相談を受けました。岩手県栄養士会のコーナーでは、毎日食べる食事のバランスや減塩を意識すると、糖尿病や生活習慣病の予防になるとアドバイスをしました。

国史跡橋野高炉跡発掘調査現地説明会

11月2日【橋野鉄鉱山】

ユネスコ世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である橋野鉄鉱山で、発掘調査の説明会が開かれました。昨年度から3年計画で発掘している二番高炉周辺は、遺構を傷つけないように、高炉覆屋の柱や炉への送風のためのフィゴ座や水車場を検出し、文久年間に描かれた高炉絵巻を検証。昭和31年に行われた岩手大学主体の発掘調査地点も確認されました。鉄銭や耐火レンガの他、石組みをつなぐ「チキリ」も発掘され、操業当時の様子がうかがえる成果を得ました。



二番高炉跡南側に位置するフィゴ座や水車場の説明に耳を傾ける参加者

第10回かまいし仙人峠マラソン

11月4日【旧釜石鉱山事務所周辺】

さわやかな秋空の下、国道283号の仙人峠を舞台に10回目となるかまいし仙人峠マラソン大会が開催されました。今年も県内外から485人の男女が参加。晩秋の山々を背に標高差約400mの峠コース（17.2km）と10kmコースに挑みました。ゲストランナーはマラソン3兄弟として知られる川内鮮輝さん、川内鴻輝さんが参加。昨年に引き続き2回目の参加となった鴻輝さんは「この大会を走ると、どこのコースも怖くない」と難コース故の効果も語りました。



峠コースに参加した289人が号砲を合図に一斉に駆けだしました

リノベーションスクール@釜石

11月2日～4日【co-ba KAMAISHI MARUDAI（釜石大観音仲見世通り内）】

三陸初開催となったリノベーションスクールでは、今ある資源を活用し、知恵と工夫によって、まちの魅力を再構築する方法を学びました。参加者は、釜石大観音仲見世通り周辺の3つの遊休不動産の事業プランを企画。公開プレゼンテーションでは、物件オーナーらに釜石大観音のドローン参拝や、さまざまなワークショップができるスペース（Class Space）とシェアハウス（暮らす）を一緒にした「ナカミセクラス」など、運営や収支を含めた活用策を提案しました。



参加した19人は3グループに分かれ、熱い思いと多様な発想で、活用アイデアを提案しました

第49回釜石市民芸術文化祭

～たゆめ美の文化を育む、芸術の開花の明日を信じて～

11月8日～10日【釜石市民ホールTETTO】

今年の釜石市民芸術文化祭は、岩手芸術祭巡回美術展（入賞作品約80点）と移動公演との合同で開催されました。また、市内小学校が所蔵する普段は見ることのできない深沢紅子さんと桑畑和生さんの絵画も展示。市内の活躍団体の皆さんの作品展示やステージ発表の他、呈茶サービスも行われ、訪れた人々に心豊かなひとときを届けました。



金田尚子舞踊研究所によるモダンダンス

たたら製鉄体験

11月21日～22日【釜石小校庭】

釜石小5年の20人が2日間にわたりたたら製鉄を体験しました。1日目は、コンクリートブロックや耐火レンガを積み上げ、炉内の温度が下がらないように隙間をモルタルでふさぎながら築造。2日目は炉内に木炭と鉄鉱石を交互に入れて、約1,200℃まで加熱。燃えて少なくなっていく木炭を補充しながら、鉄鉱石に含まれる不純物「ノロ」が流れ出てくる様子を観察しました。先人の苦勞を学んだ児童らは、炉を壊した後に残った鉄の塊「ケラ」を確認し製鉄の成功を喜びました。



ノロが流れ出る様子を観察する児童ら



鉄鉱石と石灰を混ぜた原料を炉の上部から投入します

うのスタ(釜石鵜住居復興スタジアム)イベント

ラグビーワールドカップ閉幕後の釜石鵜住居復興スタジアムで、ラグビー以外のスポーツや文化活動イベントが開催されました。

うのスタシネマ「ボヘミアン・ラプソディ」 上映会（11月3日）

「うのスタで映画を観る会」が開催したイベント。夜風が冷たい中、約200人の来場者は野外上映会を楽しみました。上映前にはラグビー体験会やスタジアムツアーも開催され、ラグビーとスタジアムにも関心を寄せていました。



仮設設備が撤去された大広場が、スクリーンと音響設備が設置されました

ふかふかの芝生の上で野球を体験しました



うのスタ野球&ラグビー教室（11月17日）

読売巨人軍ジャイアンツアカデミーと釜石シーウェイブスRFCの協力で教室が開催され、午前の部には、野球やラグビーになじみのない子どもも参加しました。ジャイアンツのコーチからはボールの投げ方やバッティングを丁寧に教わったり、ラグビー教室では慣れないボールに戸惑いながら、楽しく体を動かしました。

がんばれ! 釜石シーウェイブスRFC

トップチャレンジリーグ(釜石鵜住居復興スタジアム)

第1節 11月16日 釜石SW△24対24△コカ・コーラレッドスパークス
第2節 11月23日 釜石SW●19対26○九州電力キューデンヴォルテクス

11月2日にラグビーワールドカップ日本大会が閉幕。その興奮が冷めやらぬ中、釜石シーウェイブスの公式戦トップチャレンジリーグが地元での2連戦で開幕しました。

11月16日の初戦コカ・コーラとの試合は、試合終盤まで相手にリードを許す展開でしたが、後半ロスタイムにフォワードがモールを押し込み同点に追いつきノーサイド。来場した2,000人を超える観衆は、次節での勝利に期待を膨らませました。

11月23日の第2戦。九州電力が試合終盤までリードを保ち、7点差のままロスタイムに。釜石は連続攻撃で九州電力のゴールライン前まで攻め込みましたが、惜しくも7点差のままノーサイド。観客は、残り5試合での活躍を期待し、両チームに惜しめない拍手を送りました。



第1戦。最後は中野主将がボールをインゴールに運び同点に



第2戦は1,700人の観衆を集め、バックスタンドにはたくさんの大漁旗が舞いました